

## 3つの実践活動から 見えてきたこと

藤田美佳 第2部のパネルディスカッションに入ります。まず、このパネルを設定した背景とねらいをお話ししたいと思います。冒頭、根岸が協働実践研究の問題意識を説明しましたが、学校はなかなか変わらないという現実が研究会の中でしばしば出てきていました。そこで研究班では、学校ベースで変わらない状況の下、子どもたちへの支援について、どのように取り組んでいったらいいのか。その可能性を探る中で、「川崎市ふれあい館」で行われている、外国につながる子どもたちの学習サポートを中核にして、地域の施設である「ふれあい館」、小中学校、高校、教育委員会をはじめ、行政、ボランティア、学習サポートを受けた側であった子どもたち、その子たちがOB・OGとなって、今、サポーター側に回っていますが、彼らも含めた連携モデルの構築に取り組むということで、協働実践研究を続けています。

そして、今回のこのパネルでは、川崎市における取り組みに加え、地域、学校による連携プログラムがすでに展開されている2つの地域、愛知県豊田市の保見団地地区と福岡市東区香椎浜地区の「よるとも会」の2つの事例を含めて、各地域の取り組みを知り、その共通性、個別性を把握しながら、子どもたちのサポートについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

初めにパネリストの皆さんにそれぞれの活動を報告していただいた後、質疑応答、コメントと進めていきます。では、豊田市のケースを井村美穂さんをお願いします。



藤田美佳